



子育てから、 人権の芽を育てよう！

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
(中略)

叱りつけてばかりいると、
子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだとおもえるようになる

ドロシー・ロー・ノルト著 (米国の教育学者)

【想像力を働かせる】

小学校の給食時間のことです。

左記は、アメリカの教育学者、
ドロシー・ロー・ノルト氏の詩
です。今から一五年ほど前に当
時皇太子殿下が紹介され、感銘
を受けた人も多いと思います。
この詩を読むと、「子どもの
一生を貫く、人権を大切にす
る心」が、子育ての中にたく
さん含まれていることに気づき
ます。今回は、「子育てにおける
人権」について考えてみましょう。

一年生のAさんは、とうもろこ
しを持ちながらじっとしています。
先生が「どうしたの？」と尋ねても
答えません。先生は具合でも悪い
のかと思い、「おなかが痛いのか？」
と聞きました。Aさんは、首を横
に振った後、とうもろこしを食べ
ている周りの友達を見ています。
その様子に気付いた先生は、「どう
もこしはね、こつやって食べる
んだよ。」と食べ方をゆっくり見せ
ました。すると、Aさんは笑顔に
なり、大きな口を開けて食べ始め
ました。

【大人の声掛けによって】

このような微妙な様子や表情
をとらえて、想像力を働かせた
り、思いを巡らせたりして声を
掛けることは、一人の子どもの
大事に思っていることが姿に現
れています。Aさんにとって
人権の芽が育つ瞬間と言えます。

小さな子どもは、「癩癩(かん
しゃく)を起こす」ことがあります
すね。その時、親として家族と
して、地域の大人としてどのよ
うな声を掛けますか？

- ① いい加減にしない。そんな
聞き分けのない子知りません。
- ② ずいぶんイライラしてるのね。
何か嫌なことがあったんだね。
- ③ いいわよ。ずっとそうやって
いなさい。

よりよい声の掛け方は、②に
なります。小さな子は、自分の
気持ちの的確に言葉で表現する
ことが難しいので、自分の思い
通りにならなかつたり、伝えた
くてもうまく言葉にできなかつ
たりすると「癩癩を起こす」とい
う方法で伝えるのです。①や③
のような声掛けだと、自分の気
持ちを受け取ってもらえず、子

どもは余計にどうしたらよいか
分からなくなり、さらに「癩癩
を起こす」ことになりませう。

②のように、子どもの混乱を、
まずきちんと受け止めます。少
し落ち着いたら、「どうしたの？」
と問いかけ、子どもの混乱を整
理して「なるほど、○○が嫌だっ
たんだね。△△のようにしたかっ
たんだね。」と伝えます。親や家
族、周りの大人が少し手助けす
ることで、子どもは自分で癩癩
に至った原因を考えます。さら
に、どうするとその混乱した気
持ちが収まるのか、自分で答え
を見つけ出すことにつながるの
です。このように、大人の関わ
り方によって、子どもが自分の
心と向き合う行為が、人権問題
に対峙したとき、自分本位では
なく、冷静に考える力となるの
です。

【人権を大切にしたい大人へ】

子どもは、見つめ・認め・愛
してあげれば、他人の人権を大
切にする子に育つと考えます。親
として、大人として、今一度子
どもへの接し方を見つめ、「人
権の芽」を育てていきましょう。